＊コラム＊ 地域定着支援での支援ケース

地域定着支援により、常時の連絡体制の確保と、障がい特性に起因して生じた緊急事態等の相談・支援を行っているケースを紹介します。

１ 生活の見守りのため地域定着支援を行ったケース

本人の状況　５０代　男性　療育手帳Ｂ２　アルコール依存症
家族の状況　父（特別養護老人ホーム入所中）、母（死去）、姉（関わりを拒否）
現在の住居　在宅での単身生活

母が将来に備え相談支援事業所へ相談していた。母死去後、しばらくして父も特別養護老人ホームに入所。姉は関わりを拒否し、本人は両親と生活していた家で居宅介護を利用しながら単身生活を送るが、両親がいなくなり、飲酒量の調整ができなくなったため、居宅生活が困難となり、精神科病院に入院。しかし、病院から無断で飛び出し、退院扱いとなったため、地域定着支援を導入し、見守りを行いながらの単身生活に戻る。その後も体調悪く、毎日のように１１９番通報で病院に運ばれるも入院の必要がない場合などは、病院から相談支援事業所に連絡が入り対応することもあった。

【地域定着支援における支援（例）】
- 緊急搬送時における本人に対する支援機関をあらかじめ本人、医療機関、支援者間で共有し、緊急搬送後本人の状態が落ち着いた際に医療機関への訪問や帰宅支援を実施
- 生活全般の安定に向けて、障がい福祉サービスや日常生活自立支援事業などの社会資源に関する情報提供

現在は、指定特定相談支援事業所と連携し、障がい福祉サービス等の調整を行い、単身生活を続けている。障がい基礎年金と生活保護を受給し、日常生活自立支援事業を利用しながら金銭管理の支援をしている。また、自立支援医療を利用して精神科病院へ通院している。地域定着支援を含めた支援のネットワークを得て、生活は安定しつつあるが、きっかけがあれば、以前のように病状が悪化するなど不安定な生活に戻る可能性も高く、引き続き定期的に訪問し、心身の状況を把握するなどの地域定着支援を行っている。

【地域定着支援における支援（例）】
- 精神的に不安定となった際に連絡してきた場合の面接を含む対応
- 居宅介護事業所と本人の生活状況、体調の変化についての情報交換
- 日々の金銭管理についての支援
- 訪問面接で状態像を把握し、あらかじめプランに位置付けられている緊急時の短期入所利用の必要性について本人への相談と利用調整

2 父母・本人ともサービスの導入に抵抗感がある中、地域定着支援により、見守りを続けているケース

本人の状況　　６０代　男性　　身体障がい者手帳１級　視覚障がい
家族の状況　　父　９０代　　母　９０代
現在の住居　　父母と同居

盲学校（現 視覚支援学校）高等部を卒業以来、本人の介護は全面的に父母のみが行い、社会との接点のない、在宅での生活が続いていた。

父母の高齢化に伴う体力低下により入浴の介護が難しくなったことから、近隣の民生委員に相談し、相談支援事業所につながる。本人は居宅介護（入浴サービス）の利用には同意するが、それ以外のサービス利用は父母は自ら介護するとして、拒否気味である。また、外出について、本人は怖がってはいるが、父母が付き添って近所の診療所への通院はできている。それ以外の外出について、同行援護の利用を父母が拒否している。

現在、サービスは週２回の居宅介護（入浴サービス）の利用のみであるが、地域定着支援を導入し、指定一般相談支援事業所が月１回訪問面接を行ないながら、連絡体制の確保と緊急時支援に備えている。

【地域定着支援における支援（例）】

・月１回の訪問面接による本人の状況把握と社会資源の情報提供
・父母との面接による社会資源の情報提供

＜支援のポイント＞

・介護者（父母）の疲労や介護負担の聞き取り
・居宅介護の利用回数増による父母の負担軽減の検討など、計画相談につなげる。
・移動支援事業利用等による本人の社会参加に向けての助言
・緊急時に向けての社会資源の説明

３　入所施設から地域生活に移行し、地域定着支援により、見守りを続けているケース

本人の状況　　３０代　男性　　療育手帳Ｂ２
家族の状況　　母は音信不通。父は幼少期に離婚したため、連絡は取れず。
現在の住居　　アパートを借りての単身生活

施設入所中にグループホーム体験入居事業を利用するが、生活場面でのこだわりが強く、世話人や他の入居者との折り合いが悪く、トラブルが絶えなかった。地域移行にあたって、集団生活では本人のストレスが高くなることから、単身生活の可能性について検討し、民間アパートで１週間一人暮らしを体験した。

その後、日中活動として就労移行支援事業、週３回の居宅介護（家事援助）のサービス等を利用することとして、調整を終え、施設を退所し単身生活を始める。

金銭管理が不安なため、日常生活自立支援事業を利用している。余暇活動や通院には移動支援事業を利用。地域定着支援を受けながら地域生活を送っている。

【地域定着支援における支援（例）】

・月１回の訪問面接による本人の状況把握と相談
・本人にとってパニックになる要因発生時の緊急訪問（例：鍵が開かない。水が止まらないなどのトラブル対応）
・精神的に不安定時の電話相談や訪問相談、関係機関との対応調整
・家庭の生活状況把握のため、居宅介護事業者との情報共有

＜支援のポイント＞

・チームとして本人の生活を支えられるよう、支援者間のネットワークによる支援体制づくり（支援者間の役割分担と連携体制の構築）
・今まで経験したことのないトラブルが発生した場合などには、本人が状況を理解し、対応できる力を持てるように寄り添いながら支援していくことが必要。